

か ね える す でき ない ろ どり ある まち 通信第②号

令和3年12月10日 発行:豊島区教育委員会事務局庶務課



第2回の家庭教育推進員事業も、オンラインで実施しています。家庭教育推進員活動は、例年、地域ごとの少人数のグループに分かれて、話し合い活動を中心に進めています。初回よりもずいぶんMeetに慣れてきたというお声が皆さんよりあがっています。

まずはチャットを使ってみよう

第2回のテーマは「ワークショップとは」。前回の資料の内容を具体的にお話しいただきます。まずは、オンラインで使いこなせると便利なチャット機能を使って、お題が出ました。「皆さんのお子さんが明日の宿題になかなか取り組まないとき、どんな対応をしますか？」(実際に齋藤先生のお悩みだそうです...)皆さんからは、こんな意見が寄せられました。

- ★やるように声かけする
- ★放置
- ★時間を決めさせる、ルール作り
- ★自主性に任せる
- ★テレビやゲームタイムを宿題後に設定する
- ★ゲームなどを隠すと言う などなど

皆さん、いろいろな工夫をされているんですね！

ワークショップでファミリーデザイン

まちづくりやコミュニティデザインを実践してきた齋藤先生は、これまでの3年間「まちづくりの理念を子育てに応用すること」を家庭教育推進員で広めてきました。その中で出てきたキーワードは「当事者性」「参画」「コミュニケーション」「共有」の4つでした。

今年度の大きな目的は「ワークショップでファミリーデザインonline」、「まちづくりの理念を子育てに」という2つです。

具体的には...

- オンラインでのコミュニケーションに適應する
＝子供たちと同じ状況を味わってみる。
会社のリモートワークとしてではなく、「フラットな横の関係」を築いてもらう。
- オンラインでのワークショップを楽しむ
＝おうちでも家族や友達と楽しむ。

ファシリテーション・ワークショップとは？

ワークショップには「ファシリテーション」のスキルが必要です。参加する人たちの理解を容易にするためには欠かせない存在となります。教えるのではなく、引き出すかわかり方で子供の主体性を引き出せるような働きかけができるようになるということです！

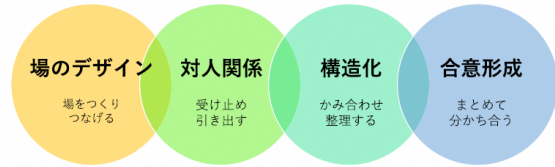
また、右下の図は、組織開発などでもよく見る図です。どこに注目すればいいのかわかる、ということをよく言われますが、どこだと思えますか？まずは「関係の質」からがいいそうです。よくあるNGパターンは結果の質からみてしまうこと。悪循環が起きてしまうそうです。

お互いに尊重し一緒に考える、という姿勢からまずスタートできると、よい循環に変わっていくそうです。成果がたとえでなかったとしても、ふりかえり、話し合うことができれば、信頼関係が深まり、よりよいものに変えていけます。対人関係をいかに潤滑にするかということがファシリテーションの重要な役割といえます。

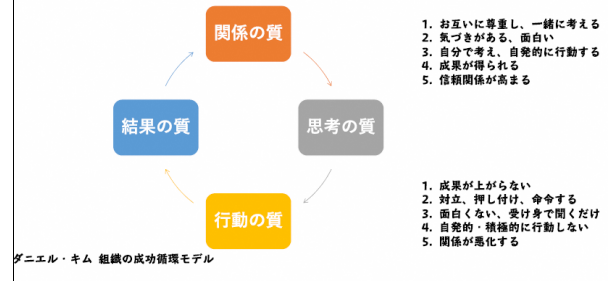
ファシリテーションとは何か？

ファシリテーション ≠ 司会
= プロセスや活動を容易にすること

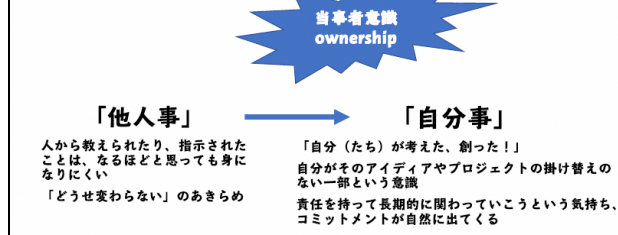
日本ファシリテート協会HP「ファシリテーションとは」



一緒に考える（組織の質循環モデル）



ワークショップの最大の意義



ワークショップの分類



かすい
はこの
赤い丸
のところ

ワークショップの最大の意義は、「自分事」として落とすこと。それぞれの方に、役割や環境を与え、当事者になってもらう場を作るということも大事だそうです。

グループワークに挑戦してみました★

今回の目的は、オンラインでグループで話し合うこと！まずは自分の「Like⇒好きなこと、Can⇒できること、Will⇒やってみたい、Needs⇒求めていること・もの」をみつけてみます。そしてそれを地域ごとのクラスルームに入って話し、一人一人の興味と武器を共有します。前回も実施したグループ活動でしたが、話し合いもスムーズに進んでいるようでした。かすい活動が終わった後に、クラスルームに書き込んでくださったグループもありました！



ここからは、皆さんからいただいたアンケートを一部ご紹介します。

Q 印象に残ったことはなんですか。

- ワークショップの最大の意義は当事者意識を持つこと。とても大切なことだなと思った。
- ワークショップでほかの参加者様とつながれ、人となりを知れたこと。
- ワークショップで、話をしやすい人数、机の並び方、話の進め方についてが興味深かった。
- ワークショップについてわかりやすく説明があり、よく理解できた。
- 組織の質循環モデルのお話し(多数!)で、関係の質からスタートするという部分。
- 裁かれるという緊張感のない良好な関係を築けると、個々が自分の特性を発揮して参加し、良い結果が得られるというのは、理想的だ。
- 組織の成功循環モデルの結果の質からでなく、関係の質から始めると良い結果が出やすいという観点到賛同。勤務先でも活用できたらよい。
- ファシリテーションで特に大事なことが、話を聞き、記録することと知り、意外で驚いた。
- ファシリテーションは家庭でも生かせるというところ。
- ホワイトボードなど買って、家でもやってみみたい。
- ファシリティデザインのプロセスの中で、参画と参加の明確な違いを伺ったこと。確かに運営から携わる参画のほうが、より当事者意識を育むと納得した。
- LIKExWILL×CAN×NEEDSのワークシート作成と皆さまの発表内容。
- グループワークで、より皆さまとの距離が縮まった気がした。
- グループの方の興味が、自分となんとなく似ていることに、驚いた。
- ディスカッションはいろいろな意見が聞けて面白い。共感できる部分、なるほどと参考になる部分がたくさんある。
- ゲームではなく、どのように子供が宿題を優先するようにもっていくかのお話し。
- コロナ禍で外での活動が減っており、もっと体を動かすことを求める方が多いと感じた。
- 全体会からグループワークに移って少人数になるとやはりリラックスして話しやすくなった。

Q 今回学習した内容で、これから実行しようと決めたことを挙げてください

- 家庭でも、ファシリテーションの基本技術を使っていきたい。
- 家族が自分に対して何を望んでいるかを考えて見ること。(NEEDS)
- 子供ともっと話して、個としての子供の意見や行動を認めていきたいと思った。
- 子供の言葉を記録するということ。ホワイトボードを買おうと考えた。
- 親子間だけでなく、いろいろな人間関係の中で関係の質をあげること。
- 組織の質循環モデルの話が印象的で、自分の生活の中でも取り入れていきたい。
- 物事を他人事ではなく自分事として考える意識をもつ。
- 相手の話を積極的に聞き、尊重する。
- 得意なことを作りたい。得意をいかして、オンラインでできるワークショップをみつけていきたい。
- 過去のワークショップを参考に、何ができるかを考えてみたい。
- 発表会に向けて、何がよいかを自分で積極的に考える。

Q お気づきの点やご意見があればお聞かせください。

- ❑ 結果的に解決したが、クラスルームを移動した際に音声聞こえなくなりました。いったん退席して再接続したら解決しました。

▶スマートフォンから参加されている方もそうですが、全体のClassroomはいったん退出してから、グループごとのClassroomに入りなおしていただくとスムーズです！お手数ですがご協力ください。全体のClassroomに戻って来てもらいたいときには、事務局がチャット等でお声がけします。

- ❑ グループでのMeetの時、音声を切り替え積極的に発言した方が良いのかどうか戸惑ってしまった。

▶ぜひ積極的にお話ください。お話する際にはマイクがオンになっているか、ご確認ください。聞く際にも、オーバーリアクションを意識していただくと、お話している方も聞こえているなど安心します。

- ❑ グループでのMeetの際、ファシリテーターのマイクから他の人の声が入り、聞きにくい。

▶ご指摘ありがとうございます。次回からは推進員の方のお話中はファシリテーターのマイクをオフにするようします。

- ❑ Meetが使いにくい。Zoomなどに変更希望。

▶この事業でMeetを使用しているのは皆さんのお子さんも同じシステムを使用していることが大きな理由です。いろいろなビデオ会議ツールが出ている中、初めての方には不便かと存じますが、徐々に慣れてきたとのお声も頂いています。操作でわからないことがあれば、事務局まで気軽にお問合せください。

- ❑ 欠席された方の対応はどうなっていますか？

▶前回の動画を全体のClassroomに投稿していますので、第3回月例会の前までに先生の資料と一緒にご覧いただけたらと思います。毎回、講座の冒頭で、前回のふりかえりのお話が齋藤先生からあると思います。また、グループのClassroomもぜひ見てみてください。ファシリテーターが前回のグループ内の様子を投稿してくださっています。

- ❑ 講座の動画が携帯で見れない

▶データ量が大きいので、パソコンで見ていただくことをお勧めしております。携帯で見ると、シークレットモードに設定する、Googleドライブアプリをインストールしてから使用する、また十分な携帯のデータ容量があるか確認、通信速度のよい環境で御覧いただくようお願いします。



スタッフの皆さん ご紹介
(講師・助手・ファシリテーター)

後列左から

5班 1班 2班 6班 4班
筒井さん 松下さん 菅原さん 稲垣さん 山口さん

前列左から

3班 講師 助手
阿部さん 齋藤先生 幅野さん